

公安委員会定例会議(第15回)の開催状況

第1 日 時 令和4年6月22日(水)

午後1時30分 ～ 午後4時15分

第2 出席者 五葉委員長、曾我部委員、渡部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長

刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長

総務課長

第3 議事の概要

1 曾我部委員説示

本日は、「気づき(きっかけ)」について話します。

私は、小学1年生の時に先生が嫌いで学校に行くのが嫌でしたが、小学2年生の時には好感が持てる先生に変わり、学校に行くのが楽しくなりました。その先生は「頭が悪いのではない。やればできる」「算数が苦手でも、好きな車のナンバープレートを見ながら計算練習をすればいい」などと、いつも私を励ましてくれましたので、苦手な算数もいつしか上達していきました。

数の教え方には上手い下手があると思いますが、ちょっとした言葉のきっかけでやる気が起こったり、なくなったりします。

また、小学3年生の時には、月刊誌「子供の科学」に掲載されていたゲルマニウムラジオを見て、「こんなものでラジオ番組を聞くことができるのか」と半信半疑ながら一生懸命に製作すると、本当に音が聞こえてきたことに感動したことを覚えていますし、私はこの時に「何かのきっかけがあつて頑張れば何でもできること」や「理屈が分かれば様々なことを理解することができてモノづくりが面白くなること」を知りました。

現在、私は鉄工所を営んでいますが、若い社員には「モノづくりは面白く楽しいものである」というきっかけを与えることが大切だと考えています。

詩人の坂村真民の作品の一つに「あとから来る者のために」があります。坂村真民は「努力や我慢は後世のために」と詩っており、私も後世のために良いモノや良い時代を作っていくことが重要だと考えています。巷でよく聞くSDGsはその典型であり、掲げられた目標をきっかけに世界各国が貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会といった持続可能な開発のための諸目標を達成するために尽力し、後世のために地球環境を保全しようとしています。

人は、感動やちょっとした気づき(きっかけ)でやる気が出ます。誰しもが後に続く後輩のため、次世代の子供のために有益なことは何かについて、少し考えるだけで、やる気も変わってくると思いますので、そうした意識を持って何事にも前向きに取り組んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和4年第14回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の調査結果（2件）

総務室から、公安委員会宛て苦情の調査結果について伺いがあり了承した。

(3) 禁止命令等実施報告

生活安全部から、禁止命令等実施報告について伺いがあり了承した。

(4) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果17件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 警察記念日表彰式の開催

首席監察官から、警察記念日表彰式の開催について報告があった。

委員から、「警察官という仕事を長く続けることに敬意を表したい。引き続き、やる気や意欲を持ち続けてもらうためにも、これまでの功績を称えていただきたい」との発言があった。

委員から、「表彰の機会があることで職員の励みになる。こうした表彰制度は、今後も踏襲していただきたい」との発言があった。

(2) 第24回愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会総会の開催

生活安全部長から、第24回愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会総会の開催について報告があった。

委員から、「警察だけでは県民の安全安心を確保することはできない。若者を始め関係機関を巻き込みながら協議会を発展させていきたい」との発言があった。

委員から、「サイバー犯罪被害の発生を抑止するため、サイバー攻撃の危険性についての具体的事例を挙げながら広報活動に取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「高齢者から若者まで全ての世代が理解できるような広報活動を推進していただきたい」との発言があった。

(3) 松山市三番町における少年グループによる強盗致傷事件検挙（松山東署）

刑事部長から、松山市三番町における少年グループによる強盗致傷事件検挙について報告があった。

委員から、「街頭犯罪を抑止するため、繁華街等において警察官の姿を見せる警戒活動を積極的に推進していただきたい」との発言があった。

委員から、「警察官による街頭パトロールの強化や関係機関・団体との連携等により、少年犯罪の未然防止に取り組んでいただきたい」との発言があった。

(4) 交通重大事故抑止 3 か月対策（第 3 四半期）の実施

交通部長から、交通重大事故抑止 3 か月対策（第 3 四半期）の実施について報告があった。

委員から、「『横断歩道上であっても、運転手が歩行者に気づかず危険な場合がある』という意識を高齢歩行者に持ってもらえるような広報活動を推進していただきたい。交差点付近の道路交通環境の整備にもしっかりと取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「引き続き『大人も手を上げよう』運動を盛り上げる広報活動のほか、県民に交差点内における徐行運転の意識がしっかりと浸透するような取締りを実施していただきたい」との発言があった。

(5) 非常災害警備本部設置及び代替施設移設訓練の実施結果

警備部長から、非常災害警備本部設置及び代替施設移設訓練の実施結果について報告があった。

委員から、「訓練にやり過ぎはないので、どんな災害にも対応できるように様々なパターンを想定した訓練を繰り返し実施していただきたい」との発言があった。

委員から、「災害発生時は、情報収集が重要で、とりわけ情報網の確保が必要になる。有事の際に慌てることがないように日頃から関係機関との連携を深めるなど対処能力の向上に努めていただきたい」との発言があった。

(6) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関する報告があった。

4 報告事項

(1) 警備部長から、6月23日、岸田総理来県に伴う警護警備実施の予定について報告があった。

(2) 本部長から、「委員説示のとおり、治安情勢もちょっとした『きっかけ』で良い方向に向かったり、悪い方向に向かったりするため、こうした『きっかけ』を上手く見極めるとともに、事件化そのものがきっかけとなって、治安の状況が良い方向に向かうこともあると認識している」「警察官を拝命した以上、刑事であれ、白バイ隊員であれ、自分が選択し、与えられた任務に全力を尽くすことが重要である。後日に予定されている警察学校の訓育では、初任科生に対し、どのような仕事でも長く続けることが大切であり、1つの仕事を長く続けて極めることで尊敬される職業人になれることを伝えたい」との発言があった。

以 上